

中国における大学入試制度改革の現状と課題 —浙江大学の事例に注目して—

神戸松蔭女子学院大学 郭 曉博

1. はじめに

近年、少子化や高等教育の進学率の上昇に対応するため、日本の高大接続段階において、大学入学試験制度（以下、大学入試制度）に関する改革は行われている。具体的には、「大学入学共通テスト」の導入や、「総合型選抜」または「学校推薦型選抜」などの大学募集形態の普及・拡大により、日本における大学入試の評価方法は多様化することが見受けられる。また、情報化やグローバル化が急速に進展する社会においては、情報を適切に選択・活用していくことが不可欠である。今後、高度な情報社会を支える IT 人材の育成が社会全体の共通目標ともいえよう。2021（令和 3）年度から、「第 5 期 科学技術基本計画」の引き継ぎとして、「第 6 期 科学技術・イノベーション基本計画」は、「科学技術・イノベーション基本法」の法改正により施行されるようになった。この改革を受け、教育分野において、「第 5 期 科学技術基本計画」で提唱されてきた「Society 5.0 を具体化し、実現するために、サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革や、価値創造の源泉となる『知』の創造等が必要」¹であることは文部科学省に強調されている。2022（令和 4）年度から、情報技術を適切かつ効果的に活用する力をすべての生徒に育む必修科目として、「情報 I」が設けられることとなった。2024（令和 6）年度より、すべての国立大学は、「一般入試」における第一次試験の試験科目に「情報」を加えることが文部科学省に求められるようになった²。今後、大学入試制度の多様化、情報教育に関する基本知識の習得を重視する大学入試の選抜方法はより一層普及・拡大されていくことが考えられよう。

大学入試制度改革は隣国の中国にも急がれている。2010（平成 22）年以降の中国において、従来の大学入試制度がもたらしてきた激しい受験競争などの課題を改善するため、多元的・総合的評価・選抜などの特徴をもつ新大学入試制度が導入された。中国の新大学入試制度改革に関する先行研究を見ると、石井は、多元的・総合的評価・選抜を導入した中国の新大学入試に占める「全国統一大学入学試験」³（通称「高考」と呼ばれ、以下「統一試験」）の割合が依然として高いため、全体として入試制度の多様化が進められているわけではないと指摘している⁴。南部・西山は、高校教育段階での学習・活動成果の活用を中心に、中国を含める東アジア諸国・地域における大学入試制度改革の動向及び特徴に関して分析した⁵。小川・肖は、中国における大学入試制度改革を多面的評価、特に公平性の担保という観点から考察した⁶。だが、中国における新大学入試制度の実施状況、特徴及びその課題を大学の観点から分析する研究は少ない。本稿は、新大学入試制度改革の先進事例として、中国の浙江大学の大学入試制度改革に注目し、その実施状況、特徴及び課題を検討する。具体的には、中国の新大学入試制度改革の特徴とその政策動向を説明したうえ、浙江省と浙江大学における新大学入試制度の実施状況、特徴及び課題を解明する。これらを明確にすることは、中国の新大学入試制度に対する理解を深めるだけでなく、今後の

日本における高大接続制度全般への理論的・実践的示唆を得るという観点からも意義を有すると考える。

2. 中国における大学入試制度改革動向

中国における大学入試制度は、上記で提起した「統一試験」を指しており、1952（昭和27）年に導入された日本の「大学入学共通テスト」に類似する「一般入試」である⁷。「統一試験」は、①全国統一の受験科目の設定、②全国統一の日程における学生募集試験の実施、③全国統一の学生募集方法の実施などの特徴がある。今までの試験科目は、全員必修の「国語」「数学」「外国語」の3科目に加え、全員選択必修の「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」の6科目の合計9科目からなっていた。履修する科目により、学生が「文系」と「理系」の2コースに分けられており、「文系」の学生は「国語」「数学」「外国語」と「思想政治」「歴史」「地理」の合計6科目を履修する。「理系」の学生は「国語」「数学」「外国語」と「物理学」「化学」「生物学」の合計6科目を履修する。毎年6月7日、8日、9日に大学進学を希望する学生はそれぞれ「文系」コースと「理系」コースで「統一試験」に参加する。その後、学生が取得した「統一試験」の成績をもとに、志望する大学に出願する。「統一試験」といっても、各省・直轄市・自治区（以下、省）は全国統一の学習指導要領のガイドラインに従い、独自のカリキュラムを実施したり、独自の試験問題を作成したりすることが可能である。また、各大学における募集計画や募集人数については、「統一試験」の実施前に、教育部は各大学の専攻ごとに決定する。その上、教育考試院は各省の当該大学において募集できる人数を、各省の大学募集担当部署に分配する。これにより、大学進学をめぐる競争は省を単位として行われることになっている。「統一試験」でありながら、省ごとの多様性が見受けられる。

一方、学生の「統一試験」への一回のみの参加により、大学入試が完結することは、学力への過度な重視、試験実施形式の単一化、受験回数制限等の問題があると長年、批判されてきた。これらの問題を受け、2010（平成22）年に「国家中長期教育改革・発展計画要綱（2010年—2020年）」（以下、「計画要綱」）が策定され、2020（令和2）年までの10年間にわたる教育改革の実施が公布された。その改革の一つとして試験・学生募集制度改革が取り上げられており、従来の「統一試験」の弊害を克服し、資質教育の実施や創造的な人材の育成を推し進めるために、大学入試の内容と形式に関する制度改革を行い、総合的な資質能力の評価を重視する改革方針が示された。2014（平成26）年には国務院から「試験・学生募集制度改革を深化させることに関する実施意見」（以下、「実施意見」）が出された⁸。2014（平成26）年から「統一試験」に関する改革を試行し、2017（平成29）年からそれを全面的に推し進めて、2020（令和2）年には総合的な試験・学生募集制度という新大学入試制度を全国範囲で作り上げるという具体策が示された。この新大学入試制度は、①「統一試験」、②高校学業水準試験、③総合的な資質評価の三つの評価を融合し、学生を総合的に評価するという特徴をもっている。①「統一試験」の試験科目は、「国語」「数学」「外国語」の3科目である。②高校学業水準試験は「国語」「数学」「外国語」「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」「芸術」（音楽または美術）「体育と健康」「一般技術」「情報技術」の13科目からなっている。新大学入試制度を実施する省について、「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」の6科目から、3科目を学生に選択履修させることが求められる。学生が選択履修した3科目の試験成績は、1）卒業資格を認定する際の根拠、2）新大学入試の最

終成績への計上、3)教育活動に関する分析と改善のためのフィードバックなどに利用される。大学は、③総合的な資質評価の評価基準を各自に検討し、学生募集要項に明確に示すことが求められる。各省は上記の改革方針をもとに、省独自の制度改革を実施することが可能とされている。

本稿で取り上げる浙江省は2011(平成23)年に「計画要綱」の方針をもとに先立って、「三位一体」という新しい大学入試制度の導入を模索しはじめた。2011(平成23)年の実施当時は、浙江省内の個別大学に限定する入試制度であったが、2014(平成26)年に浙江省は上海市とともに、今まで実践してきた「三位一体」の大学入試制度をベースに、省全域で新大学入試制度を施行するよう、教育部に試行拠点として指定された。その後、浙江省と上海市に類似する総合的な新大学入試制度は、段階的に全国の各省に普及・拡大されつつある。北京市、天津市、山東省、海南省の4省・市では2017(平成29)年に導入され、続いて河北省、遼寧省、江蘇省、福建省、湖北省、湖南省、広東省、重慶市の8省・市では2018(平成30)年に導入された。安徽省、江西省、広西チワン族自治区、貴州省、甘肅省、吉林省、黒竜江省の7省・自治区では2021(令和3)年に導入され、河南省、四川省、山西省、内モンゴル自治区、陝西省、青海省、雲南省、寧夏回族自治区の8市・自治区では2022(令和4)年に導入された⁹⁾。

3. 浙江大学における大学入試制度の実施状況と特徴

3-1. 浙江省における大学入試制度の実施状況とその特徴

浙江省における「三位一体」の大学入試制度は、①「高校学業水準試験(選択)」(通称「選考」と「統一試験」の試験成績、②大学による学生の総合的な能力に対する評価、③「高校学業水準試験(必須)」(通称「学考」)の成績を総合的に評価する新しい大学入学者選抜の方法である。「高校学業水準試験(選択)」は「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」「技術(一般技術¹⁰⁾と情報技術)」の7科目からなっている。「高校学業水準試験(必須)」は「国語」「数学」「外国語」「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」「技術(一般技術と情報技術)」の10科目からなっている。実施目的は、①学生の高校時代の成績と過ごし方を重視すること、②学生により多くの受験機会と選択権を与えること、③大学と学生の双方向的な選択体制の構築を促進することの3点である。

「高校学業水準試験(選択)」と「統一試験」の受験要件は、「高校学業水準試験(必須)」に合格することである。学生は、高校1年生の7月に、「高校学業水準試験(必須)」の「歴史」「地理」「化学」「生物学」を受験する。その後、高校2年生の1月に、「高校学業水準試験(必須)」の「思想政治」と「物理学」を受験する。高校2年生の7月に、「高校学業水準試験(必須)」の「国語」「数学」「技術(一般技術と情報技術)」を受験する。すべての科目に合格すれば、高校3年生の1月に実施する「高校学業水準試験(必須)」の「外国語」¹¹⁾の1科目と、「高校学業水準試験(選択)」の「思想政治」「歴史」「地理」「物理学」「化学」「生物学」「技術(一般技術と情報技術)」の7科目のうちの3科目、合計4科目に参加できるようになる。「外国語」の試験成績は、「高校学業水準試験(必須)」と「高校学業水準試験(選択)」の両方の成績に計上することができる¹²⁾。学生が高校2年生の4月までに、高校3年生の1月に実施する「高校学業水準試験(選択)」の7科目のうち、3科目を事前に選択する必要がある。学生は高校3年生の6月に実施される「統一試験」に、全員必須受験の「国語」「数学」「外国語」の3科目、各自が選択した3科目の合計6科目を受験する。これにより、「三位一体」の大学入試において、学生の「国

語「数学」の受験回数は、6月に実施される「統一試験」の1回のみであるが、「外国語」と選択科目の3科目について、1月の「高校学業水準試験（選択）」と、6月の「統一試験」の2回の受験機会が設けられている。学生は点数の高い回の成績を新大学入試の最終成績に計上することができる。

3-2. 浙江大学における大学入試制度の実施状況、特徴及び課題

前節は浙江省における大学入試制度の実施状況について検討した。本節は浙江大学における大学入試制度の実施例、特徴及び課題を明らかにする。筆者は、2024（令和6）年7月23日と7月25日に浙江大学を訪問し、浙江大学における大学入試制度の実施状況、特徴及びその課題を、インタビューから明らかにした。調査内容を述べる前に、以下でまず浙江大学の基本情報を説明する。

浙江大学は中国の国立大学である。1897（明治30）年に創設された中国における最も古い近代的な高等教育機関の一つである。中国国内（香港・マカオ地域を除く）の大学ランキングにおいて、北京大学、清華大学に次ぐ3位に位置している。2024（令和6）年度の世界大学ランキング調査においては、北京大学の17位、清華大学の25位に次ぐ44位に位置している¹³。人文学部、社会科学学部、理学部、工学部、信息学部、農学生命環境学部、医・薬学部の7学部の合計40学科を有している。2023（令和5）年度の在学学生は67,656人、国際学生は5,514人、教職員は9,557人である¹⁴。浙江大学は中国トップレベルの国立大学として、全国のすべての省に、学生募集を実施している。浙江省出身の学生向けに、「三位一体」の成績評価方式で学生募集を行っている。2024（令和6）年の募集定員は980名である¹⁵。具体的には、学生の総合成績を、①「高校学業水準試験（選択）」と「統一試験」の成績、②浙江大学が実施する面接試験の成績、③「高校学業水準試験（必須）」の成績の3点で総合評価を行っている（図1）。

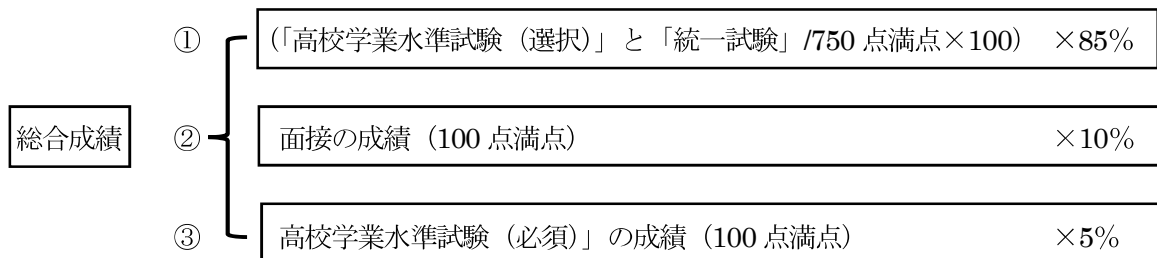


図1. 浙江大学 2024年浙江省「三位一体」総合成績評価の計算方法

出典先：浙江大学『浙江大学2024年浙江省「三位一体」総合評価募集簡章』
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2024/0509/c3299a2913074/page.htm>（最終確認：2025年1月6日）

以下で、インタビューの結果を説明する。筆者は7月23日に浙江大学の教養教育センターの責任者であるC氏に、半構造化面接を行った。質問時間は14：00～14：30の30分間である。7月25日に浙江大学の大学入試学生募集を担当するL氏に、半構造化面接を行った。質問時間は10：30～11：00の30分間である。浙江大学における新大学入試制度の実施状況、特徴及びその課題を中心に行った結果、以下の効果及び課題が見出された。

新大学入試制度の効果として、学生募集時に、大学側は新大学入試の成績以外に、学生の高校段階における学習状況を客観的に把握できるようになっていることが挙げられる。また、大学における面接を実施することで、大学における学生募集の自主性はある程度拡大されたこと、受験生の興味関心や長所

をより把握できるようになったこと、学生の入学後に対する学習指導がより適切にできるようになったことなどが評価されている。一方、課題も取り上げられている。

一つ目は、「三位一体」の大学入試制度の導入による「物理学」に関する学習が不足する問題である。従来、「理系」の専攻を選択する学生は「物理学」「化学」「生物学」の履修が必須とされてきたが、新大学入試制度の導入により、「物理学」「化学」「生物学」が選択科目となった。学生が自分の興味関心に沿って自由に選択できる機会を増やしたことが評価される一方、大学段階における「理系」の専攻に必要とされる基本的な専門知識に関する学習は不足することがあると大学側に懸念されている。「物理学」は難易度が高くて、高得点の取得が難しいとされてきたため、新大学入試制度の導入後に、「物理学」を履修せずに、「理系」の専攻を選択する新入生は少なくなかった。浙江大学はこの問題を改善するため、大学募集要項を改訂し、「理系」の専攻を希望する学生全員の「物理学」の履修・受験を推奨している。

二つ目は、浙江省以外の省に出身する新入生の情報教育の基本知識に関する学習が不足する問題である。上述したように、中国における新大学入試制度は、各省により受験科目が異なる。浙江省は中国における先進事例として、高校段階の独自科目である「技術（一般技術と情報技術）」を導入した。一方、情報教育に関する科目を、必修科目としていない省や開講していない省が数多く存在するため、省と省の間にばらつきが生じている。浙江大学は学生の情報教育に関する基本知識や活用力・応用力などを重視するカリキュラムを取り込んでいる。情報教育に関する科目の履修経験を有していない新入生は、実際の入学後の学習生活に大きな支障が生じていることで、大学関係者から注目を集めている。この課題を改善するため、浙江大学は独自の教養科目として、オンデマンド型の「大学コンピューター先修課」を開講した。ここでいう先修課とは、大学に入学する前の段階に履修する大学レベルの授業を指す。浙江大学は、新入生の入学通知書に、「大学コンピューター先修課」の必須履修を記載し、新入生の大学入学前における当該科目の受講を求めている。履修後、履修者の情報教育に関する学習到達度を確認するため、試験を行っている。試験の実施時間は60分であり、実施形式はオンライン形式である。問題形式は正誤判断問題と単一選択問題の2種類である。出題範囲は、①「コンピューター基本知識」、②「Python」に関する基本知識の二つのカテゴリーに加え、「アルゴリズム基礎」に関する知識も含まれる。点数配分は、①「コンピューター基本知識」が60点、「Python」に関する基本知識が40点である。「コンピューター基本知識」のうち、「データの形式と保存」は18点、「データのエンコード」は12点、「Microsoft Office の使い方」は30点である¹⁶。「アルゴリズム基礎」に関する知識は追加加点として、10点が計上される。新入生の受験結果をもとに、入学後のクラス分けを実施している。

4. おわりに

本稿は新大学入試制度の実施状況、特徴及びその課題を、浙江省と浙江大学の事例を取り上げながら、分析した。分析の結果、中国における新大学入試の制度改革は日本のような多面的・総合的な大学入試制度へと転換しつつあること、学生の高校時代の成績と過ごし方を重視することが明らかになった。特に、学生により多くの受験機会と選択権を与えることは、新大学入試の制度改革が高校教育にもたらしたよい面であると評価できよう。浙江大学が新大学入試の導入により、大学側は学生募集に関する自主性をある程度高めることができたとともに、学生をより総合的に評価できるようになったとL氏が評価

している。また、学生は自分の興味関心をもとに、大学を選択できるようになった、いわゆる大学と学生の双方向的な選択体制が促進されていることがわかった。インタビューを通して、浙江大学は学生の専門分野の学習を支える必要最低限の専門知識の学びや情報社会に求められる知識・技能の習得を高大接続段階において、非常に重視することがわかった。一方、新大学入試制度の導入により、浙江省以外の省の出身新入生の情報教育の習得が不足する問題が浮上している。依然として、学生の学力・総合的な能力に関する地域格差が存在することは否定できない。

本稿は浙江省と浙江大学における大学入試制度の実施状況、特徴及び課題などを解明したが、浙江省以外の地域における新大学入試制度の実施状況及び課題等に関する検討が不十分である。他方、新大学入試制度改革について、高校教員、高校生、保護者などの関係者はどのように受け止めているのかについての検討もできなかった。特に高校1年生から導入された新大学入試制度が高校現場にもたらし効果及び課題についての検討が不十分である。これらを今後の研究課題としておきたい。

※本研究は科学研究費 JSPS (平成 31 年度) 若手研究 [課題番号 19K14123] の研究成果の一部である。

註

- 1 文部科学省「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた情報分野の振興方策 取りまとめ」
https://www.mext.go.jp/content/20220323-mxt_jyohoka01-000021480_01.pdf (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 2 国立大学協会「2024 年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」
https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2022/01/20210128_news_001.pdf (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 3 原語: 普通高等学校招生全国統一考試。
- 4 石井光夫「中国の大学入試個別選抜改革—調査書活用や AO 入試の試み—」東北大学高度教養教育・学生支援機構編『個別大学の入試改革』高等教育ライブラリ 14、東北大学出版会、227—246 頁。
- 5 南部広孝、西山喜満主「東アジア諸国・地域における大学入学者選抜改革に関する考察—高校教育段階での学習・活動成果の活用を中心に—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第 69 号、2023 年、69-93 頁。
- 6 小川佳万、肖芸萱「多面的評価の中国的特質—総合評価入試の意義—」『大学入試研究ジャーナル』第 33 号、2023 年、33-40 頁。
- 7 本稿は中国の「一般入試」である「全国統一大学入学試験」のみに注目し、日本に類似する「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」などの大学募集形態について、割愛しておく。
- 8 国務院「国務院關於深化考試招生制度改革の実施意見」
http://www.moe.gov.cn/jyb_xxgk/moe_1777/moe_1778/201409/t20140904_174543.html (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 9 陽光高考ホームページ <https://gaokao.chsi.com.cn/> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 10 一般技術とは、社会一般的に使われている技術の総称で、日本でいう OT という概念に近い。
- 11 「外国語」科目は、「英語」「日本語」「ロシア語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」のうち、一つの言語を選択することが可能である。外国語科目のすべてはリスニングテストが行われる。
- 12 浙江省教育考試院ホームページ
<https://www.zjzs.net/col/col46/index.html> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 13 QS World University Rankings 2024
<https://www.topuniversities.com/world-university-rankings/2024?page=1> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 14 浙江大学ホームページ
<https://www.zju.edu.cn/xxgk1/list.psp> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 15 浙江大学『浙江大学 2024 年浙江省『三位一体』綜合評價募集簡章』
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2024/0509/c3299a2913074/page.htm> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)
- 16 学在浙大「大学コンピューター先修課」
<https://courses.zju.edu.cn/course/73032#/> (最終確認: 2025 年 1 月 6 日)

Current Status and Challenges of University Entrance Examination System Reform in China :

Focusing on the case of Zhejiang University

Xiaobo GUO

This paper analyzes the implementation status, characteristics, and challenges of the New University Entrance Examination System Reform in China, using the cases of Zhejiang Province and Zhejiang University. As a result of the analysis, the New University Entrance Examination System Reform in China is changing to a multifaceted and comprehensive system like Japan. Another characteristic is that it places emphasis on high school students' grades and how they spend their time in high school. In particular, the New University Entrance Examination System Reform has had a positive impact on high school education by giving students more opportunities to take entrance exams and the right to choose. In addition, Zhejiang University's New University Entrance Exam Interview has enabled the university to evaluate students more comprehensively. Students were also able to choose the university based on their interests. It was found that the mutual choice system for universities and students is being promoted. Interview results revealed that Zhejiang University emphasizes the acquisition of specialized knowledge in order to study specialized fields. And also place emphasis on the ability to apply the knowledge and skills necessary for the information society in a New Articulation between upper secondary schools and universities.